

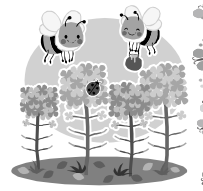


沖歯科医院便り

発行/沖歯科医院 〒053-0855 苫小牧市見山町4丁目1-6

☎0144(72)8558 ☎0800(800)8545

<http://www.oki-dentalclinic.com/>



「噛めればよい」ではなく、「噛んで健康になる」ことを目指す

食べることは、私たちが生きていくうえで必要不可欠であり、日常生活のなかの楽しみのひとつでもあります。それを思うようにできなくなってしまったら、食事の楽しみが半減してしまいます。いままで当たり前のように噛んで味わっていたのに、「噛みにくい」「味や温度を感じにくい」という状態になることは、大きなストレスになります。それよりもさらに大きな問題となるのが、しっかり噛めないことにより「全身の健康を損なう」ことです。口の健康は全身の健康に直結しているため、しっかり噛めなくなることで脳に刺激が伝わらなくなり、脳の活性化、ストレス解消、生活習慣病の予防などの大切な働きが妨げられるようになってしまいます。つまり、しっかりと噛むことが全身の健康を支えるといっても過言ではないのです。「たかが口の問題」「噛めればよい」と、噛むことを疎かにしていると、将来的に健康を損なってしまうことになります。

<部分入れ歯>

バネのある入れ歯（保険治療）

部分入れ歯は両隣の歯にバネを引っ掛けて入れ歯を安定させる仕組みです。土台となる歯に負担がかかり、健康な歯の寿命を縮める可能性があります。バネの部分が金属で出来ているので、大きな口をあけたときなどは目だってしまう。

バネのない入れ歯（自費治療）

金具を使っていませんので、歯に優しく、金属アレルギーの方にも最適な入れ歯です。また付け心地もバネのあるタイプに比べてフィット感があり、自然です。

<総入れ歯>

プラスチックで出来た総入れ歯（保険治療）

床と呼ばれる入れ歯の土台部分がプラスチック製のものになるのが一般的で、強度を出すため厚みがあります。

金属で出来た入れ歯（自費治療）

床と呼ばれる土台部分に金属を使った総入れ歯です。金属で出来ているので熱の伝わりがよく、装着時の違和感も軽減され、プラスチックのものに比べるとおいしく食事を楽しむことができます。

保険診療の入れ歯のメリット、デメリット

- 保険が適用されるので、費用が低価格です
- プラスチックなので修理しやすい
- プラスチック製に限られるので、装着時に違和感や不快感を覚えることがある
- 熱伝導率に劣るので、食事のおいしさを感じにくいことがある

自費診療の入れ歯のメリット、デメリット

- 薄く作製できる金属製のもの、クラスプ（歯にかけるばね）のないシリコン製のものなど、違和感や不快感のない自分に合った入れ歯に仕上がる
- プラスチックに比べ熱伝導率に優れ、よりおいしく食べられる
- 保険が適用されないため、費用が高額になる
- 修理が難しい場合がある

入れ歯でお悩みの方はどんなことでもお気軽にご相談ください。